

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

中国ブロッカー斉宣伝 総選挙で 日本共産党の躍進を



藤原副知事に署名を提出する村上代表ら

2月18日、行き届いた教育をすすめる会（村上代表）は、少人数学級編制基準の維持を求め、県民から寄せられた署名1万1738筆を、県と県議会に提出しました。

署名提出に際し、村上代表は「丸山知事は、保護者や教職員の反対の声を重く受け止め、基準の見直しはやめてほしい」と強調しました。

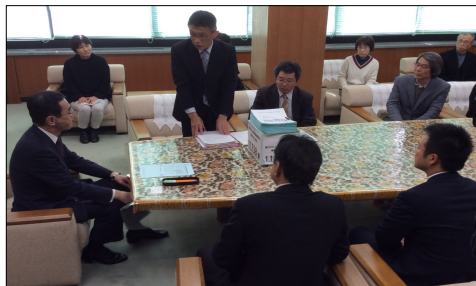
藤原孝行副知事は「ご意見は知事にきちんと伝えた」と回答。請願書を受け取った中村芳信県議会議長

昨年11月に丸山知事が基準の後退を表明して以来、同会は街頭での宣伝署名行動に取り組み、2月2日には基準の維持を求める県民の集いを成功させました。

また、この間、県PTA連合会からも4万4350筆の署名が提出されています。

「文教厚生委員会ですらに議論し、適切な結論を出してもらいたい」と述べました。

請願の紹介議員の尾村利成・大国陽介の両県議が同席しました。



中村県議会議長に署名と請願書を提出する、村上代表らと尾村・大国両県議



東部地区党会議に参加する代議員

2月23日（日）、第86回日本共産党東部地区党会議が開かれました。会議では、岩田剛地区委員長が「総選挙と来年度の松江市議選などすべての地方選挙で勝利することを最大の任務として戦う」「そのためにも強く奮闘する」と今年度の活動方針を報告しました。

会議では、「安倍政権の

卑劣な反共攻撃に対し他の野党も一緒に反撃している、地域でも党の立場を大いに訴えよう、桜の会スクープの日曜版を上げよう」など、活発な討論が行われました。

その後、「総合計画」が採択され、新たな地区役員が選出されました。岩田剛氏が地区委員長に、岩本晃司氏、上代和美・雲南市議、向田聡・安来市議、橘祥朗、吉儀敬子、田中肇の3松江市議の7名が常任委員に決まりました。

東部地区党会議終了後、党松江支部代表者会議も開かれました。会議では、様々な市民運動と協力すること、署名運動などで市民の願い実現に努力すること、宣伝活動を重視することなど活動方針を決め、新たな市議員を選出しました。常任委員として、橘祥朗、吉儀敬子、田中肇の3市議を選び、市委員長に橘祥朗氏が再任となりました。

2月議会において

市民・県民の願い実現のために力を尽くす



決意を述べる県議団・市議団

2月20日、中国地方一斉ブロッカー宣伝を松江市は京橋において行いました。尾村利成・大国陽介の県議団、橘祥朗・田中肇・吉儀敬子の3市議団が、それぞれ訴えました。

尾村・大国両県議は、2月18日から開会となった県議会でも最大の争点となる少人数学級縮小の問題を、知事が現場の状況を調査することもなく決めたこと、予算が不足する

2月23日（日）、第86回日本共産党東部地区党会議が開かれました。会議では、岩田剛地区委員長が「総選挙と来年度の松江市議選などすべての地方選挙で勝利することを最大の任務として戦う」「そのためにも強く奮闘する」と今年度の活動方針を報告しました。

会議では、「安倍政権の

総選挙・地方選挙勝利をめざして 地区党会議、松江市代表者会議開催

りげんことを紹介しました。吉儀市議は、3議席あることで議案提案権を使い「新型コロナウイルスの早期終息を求める意見書案」等を提案していることや新年度予算案に市営住宅に保証人なしで入れることになる要望が実現したことを報告しました。

田中市議は、市議団は原発問題・憲法平和問題は必ず議会でも取り上げること、信条としており、2月議会も県議・市議ともに力を合わせて取り組むことを約束しました。